

ベーシックインカムは 日本で実現可能か

名古屋学院大学 伊沢ゼミ

森田 遼大 小竹 皐太

岡 泰成 森 匡弘

岩月 柚希 大前 直哉

藤村一成

目次

1. ベーシックインカムとは
2. 先行研究
3. メリット・デメリット
4. 社会実験の事例
5. ベーシックインカムを日本で行うには
6. 実現させるための仮説

1. ベーシックインカムとは何か？

- 国民一人一人に一定額を配布する制度。
- 「政府がすべての人に必要最低限の生活を保障する収入を無条件に支給する制度」と定義される。つまり、政府からタダで毎月貰えるお金。
- 年金・雇用保険・生活保護などの社会保障制度、公共事業を縮小することにより、「小さな政府」を実現するのに役に立つと言われている。
- 無条件で支給することによって社会保障制度をシンプルにし、行政上のコストを削減する。同時に、無条件という特徴は、受給者に「政府からの施し」という劣等感を感じさせないという利点。

2. 先行研究

- ・ 池田信夫（2020年9月24日）

「国民全員に10万円分のベーシックインカムを考えてみた」

国の社会保障を財源として充てる・消費税率を平均25%に引き上げる→既存の社会保障給付をすべてBIに置き換えても126.8兆円なので、毎月10万円は出せない。（ベーシックインカムの実現可能性は低い）

- ・ 中田智之（2020年10月10日）

「ベーシックインカムで達成すべき3つのテーマ」

1. 諸制度の不公平感の解消
2. 複雑な諸制度の一元化
3. ワーキングプア・少子化対策

全ての社会保障を一元化する、原理主義的なベーシックインカムは確かに公平で合理的です。しかしそれでは医療保険制度など急に多額の出費が必要な場合などに対応できない。

そうであれば現物給付されているものに関してはある程度現状維持し、既に現金給付されている諸サービスに関して、ワーキングプア対策も含めながら一元化して合理化していく、というのが、現実的な方法

メリットその1

・**貧困対策**

無条件で収入が支給されるため、生活保護を受けられない隠れた貧困層といった人々への対策になる。子供にも支給されるため、子供が多いほど世帯収入が増え、少子化対策になる。

・**自由な時間**

働く時間が減り自由時間の選択肢が増え趣味などに充てる時間が増え幸福度が上昇し自殺者数が減る。

メリット その2

・ **労働環境の改善**

待遇面で不満がある場合、無条件で入る収入があるため、無理に働く必要がなくなる。これにより、不満があればすぐに退職できるため、ブラック企業も労働環境に改善が余儀なくされる。

・ **社会保障制度簡素化とコスト削減**

無条件での支給のため社会保障や医療、生活保護に至る行政を一括してベーシックインカムとして配布できるので、公務員を削減できコストダウンし無駄な手続きもなくなる。

デメリット_{その1}

- **財源の確保**

国民全員に月7万の支給でも年間で104兆円必要になるため増税が避けられない。

- **個人への責任負担が増大**

個人の資質によって変わるが使い道が自由であるため生活苦に陥った場合セーフティーネットがなく、個人への医療費などの責任負担が大きくなる。

デメリット その2

・労働意欲の低下

何もしなくても最低限度の生活ができるのであれば、働きたくない人が増える可能性がある。国民の労働意欲が大きく低下するような事態になれば、国際社会での日本の競争力は低下する。

4. 社会実験の事例



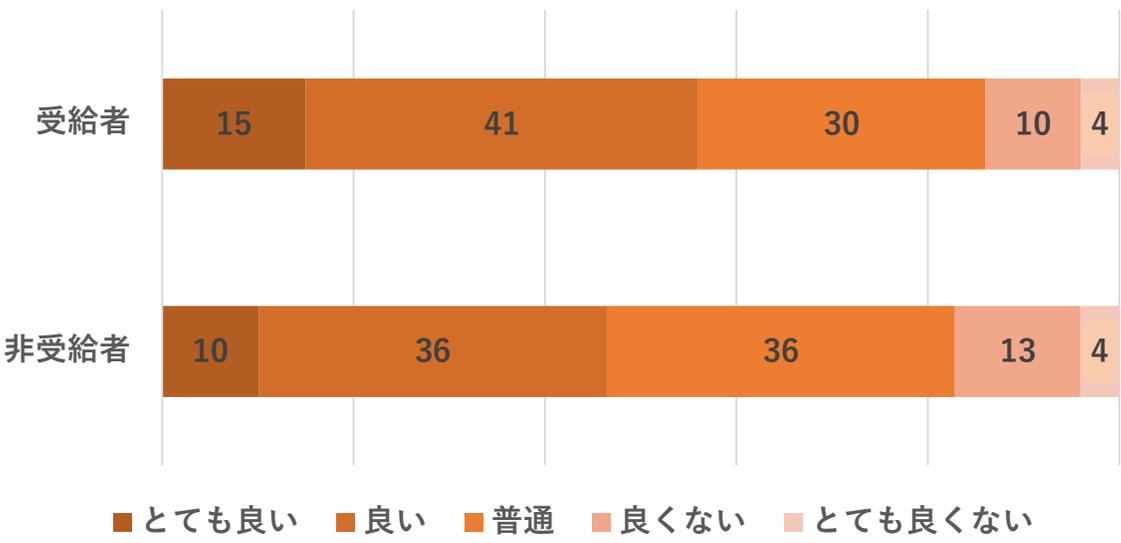
フィンランド(2017年・1月～2018・12月)

25～58歳の失業者の中から無作為に**2000人**を対象とした。

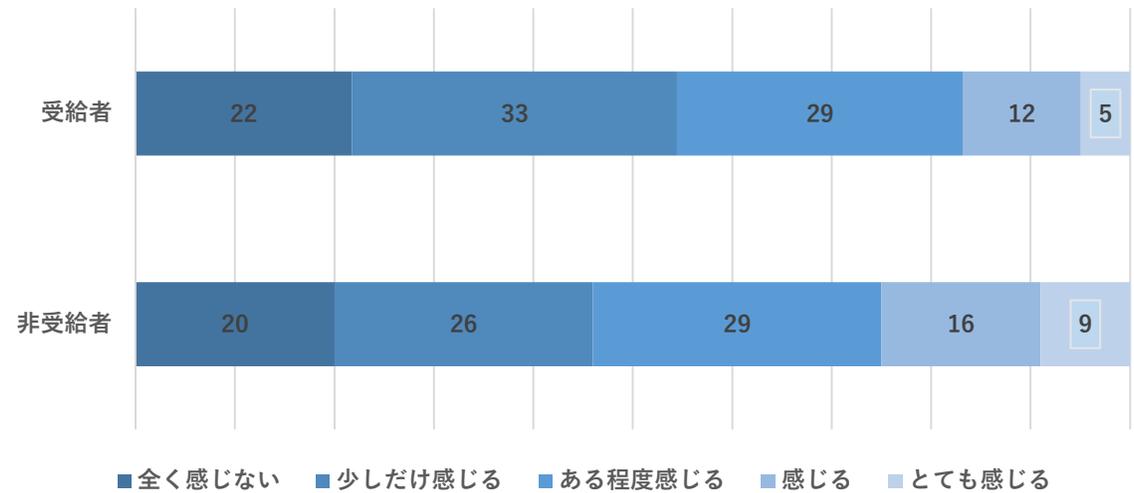
(支給を受けない17万3000人を比較対象とした)

毎月**約65000円**支給

自分の健康状態の自己評価



ストレスを感じる割合





カナダ(1974年～1977年)

マニトバ州のドーフィンの住民**1000**人を対象に一人当たり年間**130**万円を支給

お金を受け取った人は受け取ってない人より**ドラックやアルコールに溺れる人が減った。**

お金を受け取った人は受け取ってない人より平均労働時間は**17%**増加し、**38%**高い収入を得たという結果も出ている。

前澤社長・コロナによる
一時的なベーシックインカム

ZOZO前澤社長 10億円お年玉企画実験

250人

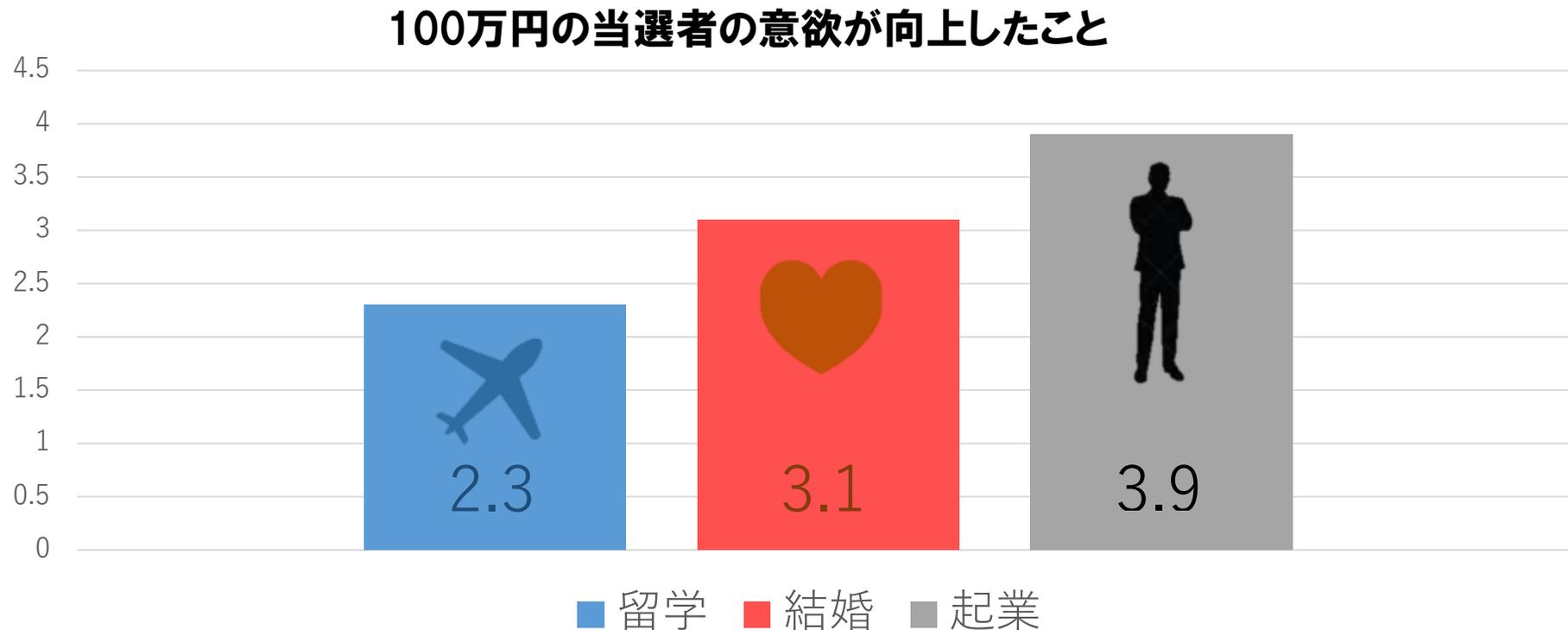
**Q1.労働意欲やチャレンジ精神向上の可能性
の有無**

Q2.幸福度向上の可能性の有無

500人

Q1.労働意欲やチャレンジ精神向上の可能性の有無

- ・資金がなく諦めていた「起業」に回答する人が多数。
- ・自己投資をはじめとする自分の生活を見直すきっかけになった。



Q2.幸福度向上の可能性の有無

- ・現金をもらったグループの方が10%ほど幸福度が高いというデータが確認でき、これは年収が150~200万円上がったくらいに相当する。
- ・現金給付が家庭に良い影響を及ぼし離婚率が下がったと示唆されている。

非当選者：離婚率1.5%

当選者：離婚率0.6%

0.9%減少した

結婚率は0.9%上昇

コロナ対策によって行われた一時的なベーシックインカム

- イギリスは個人授業主に最大32万円
- スペインは23歳以上65歳未満に5万7000円～12万6000円
- アメリカは一部の富裕層を除いた国民に
子供は5万、大人は13万
- 日本は10万
- 香港は14万
- マカオは富裕層と公務員を除いた就労者に20万と電子商品券6万7000円
- ドイツは中小企業に最大106万、フリーランスに59万

コロナ対策によって行われたベーシックインカム

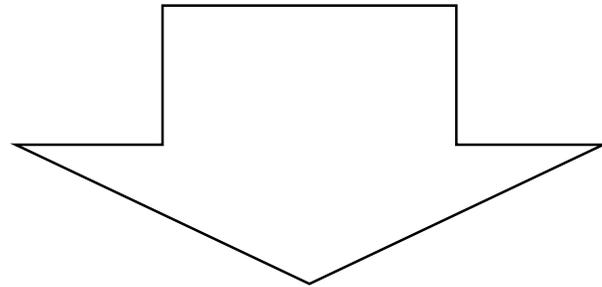
- 今回の現金支給は「一時的なベーシックインカム」といわれる。
- 日本での今回の総支給額は約12兆円国家予算の国家予算の約10%

5. ベーシックインカムを日本で行うには

18歳以上かつ手取り年収600万以下の人口に月7万を支給するのに、年間約70兆5600億円必要

約8400万人×7万円×12か月=70兆5600億円

2020年の日本の国家予算は102兆6580億円



つまり、**日本の国家予算の約69%分の財源**が必要となる。
どのように財源を確保するのが課題！！

6. 実現させるための仮説

支給額1人当たり月7万円とすると、

18歳以上かつ手取り年収600万以下に配ると年間約70兆5600億円必要！

社会保障(2020年35兆円) → 35兆5600億円足りていない

社会保障の財源は消費税21兆7000億円(2020年)

※残りの財源はその他の税から賄われている

約70兆5600億円 / 35兆5600億円 = 約2倍

→消費税を2倍に増税すれば、

18歳以上かつ手取り年収600万以下に7万円配ることができる

財源をどうやって確保するか

「ベーシックインカム基金の導入」

- これに参加している企業は売り上げの15%を国民のベーシックインカムに還元する。
- これにより国民は参加企業でお金を使うようになり、企業の売り上げも上がる。

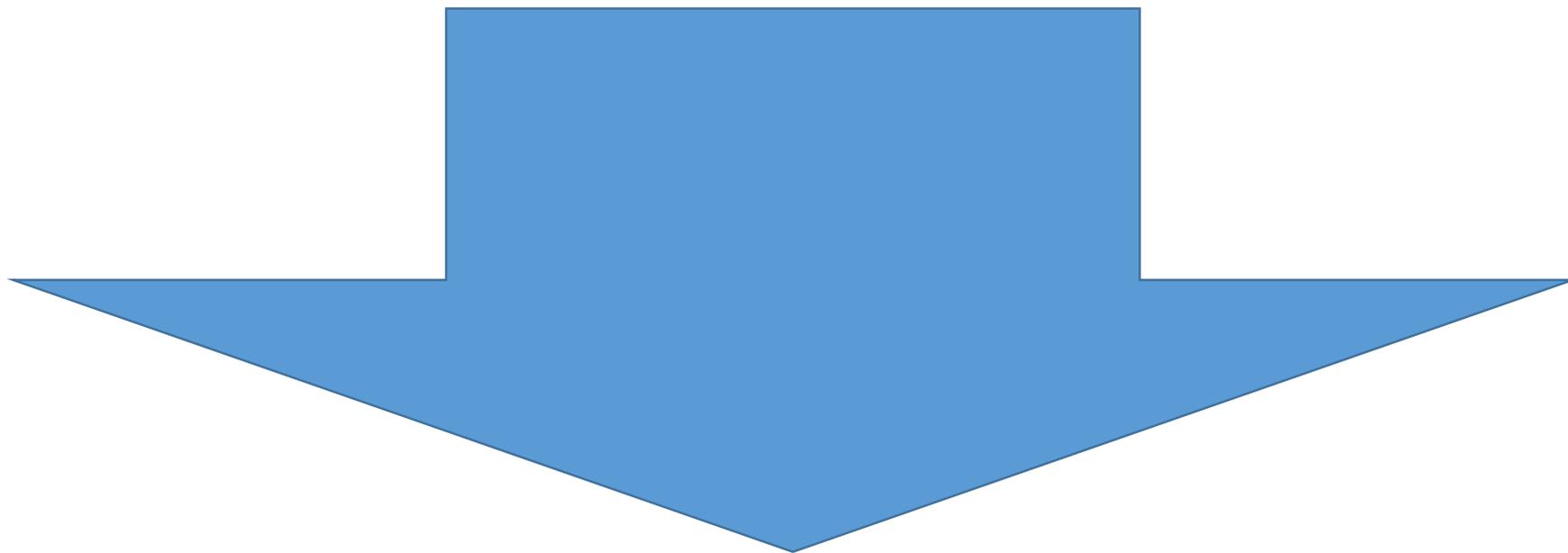
企業協力による財源確保

日本の企業の売上トップ100の売り上げの15%を
BIにまわした場合は年間3.8兆円で
一人当たり月に約3000円

合計で73000円の配布

財源確保

- ・ **企業協力を得てなおかつ国民に経済を回すために給付金を確実に使ってもらうための施策**



施策

支給額1人当たり月7万円



売り上げの何%を国に還元

新通貨を国民が消費する

**ベーシックインカムは実現の可能性はあるが
現状では、実現は厳しい…**

負の所得税

～ベーシックインカム代わりに～

負の所得税とは

所得に関係なく一定の税率を一律にかけ、基礎控除額を定めることでそれを上回った者から所得税を徴収し、下回った者は逆に所得に応じた負の所得税を払うものである。

基礎税率40% 基礎控除額が年収200万円の場合

年収1000万円の場合

年収1000万円 - 基礎控除額200万円 = 800万円

課税対象800万円 × 基礎税率40%
= 320万円

年収100万円の場合

年収100万円 - 基礎控除額200万円
= -100万円

課税対象-100万円 × 基礎税率40%
= -40万円

ベーシックインカムと負の所得税の違い

	ベーシックインカム	負の所得税
貰える人	全員	所得の少ない人
貰える金額	全員一律	所得に応じて変化

ベーシックインカムは全員一律の金額貰える

負の所得税は収入の少なさに応じてもらえる金額が変わる

負の所得税は貧困対策

負の所得税は所得により決定

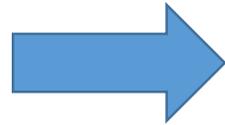
確定申告により貰える金額が決定

いわゆる還付金

生活保護は申請が必要！

負の所得税は確定申告だけで良い！

負の所得税のデメリット



所得税が負の部分で格差が起きる！

例) 収入が0で所得税がマイナス100万(100万円貰える)
収入が50万で所得税がマイナス50万(50万貰える)



働いている人と働いていない人との
収入の差がなくなる！

勤労意欲の低下につながる！

まとめ

現状の日本では、18歳以上かつ手取り年収600万以下の人に月7万を支給するのに、年間約**70兆5600億円**必要であり、実現するためには消費税を2倍にする必要があるため、**現実的には難しい。**

参考文献

note 著作：千正康祐 「ベーシックインカムとは何か」 <https://hoken-room.jp/money-life/7967>

agora 著作：池田信夫 「10万円分のベーシックインカムを考えてみた」 <http://agora-web.jp/archives/2048238.html>

agora 著作：中田智之 「ベーシックインカムで達成すべき3つのテーマ」 <http://agora-web.jp/archives/2048455.html>

Newsphere 著作：山川真智子 「年140万円支給、カナダ・オリエンタリオ州でベーシックインカム実験」 <https://ameblo.jp/hokuwalk/entry-12597870163.html>

Abemaブログ 著作：北欧区 「北欧もっと知りたい！デンマーク、フィンランド、アイスランド、ノルウェー、スウェーデンのニュース&情報サイト」 <https://ameblo.jp/hokuwalk/entry-12597870163.html>

businessinsider 著作：中田文子 「ドイツでベーシックインカム実験始まる…3年間、毎月15万円を支給。イギリスなどでも議論がスタート」 <https://www.businessinsider.jp/post-218832>

保険ROOMマネー・ライフ 著作：谷川昌平「ベーシックインカムと生活保護の違いは？導入によって社会保障はどうなる？」 <https://hoken-room.jp/money-life/7967>

前澤式ベーシックインカム社会実験 著作：宇南山卓、井上 智洋「前澤式ベーシックインカム社会実験調査レポート」 <https://www.yusakumaezawa.com/>

データサイエンススクール 著作：古田・西田「1億407万人 18歳以上の日本人人口」 <https://www.stat.go.jp/dss/source/2016001.html>

講談社 著作：大原浩「所得が低ければ税金をもらえる「負の所得税」は世界を変えるか？」 <https://www2.rikkyo.ac.jp/web/taki/contents/2010/20100510.pdf>

日本経済新聞 著者：大西考弘「竹中平蔵氏が提言の最低所得保障、スペインで導入難航」 <https://www.nikkei.com/article/DGXMZO64518930S0A001C2000000/>

BBC NEWS 著者：ケヴィン・ピーチャー「イギリスの自営業者に給付金、その内容は？ 新型コロナウイルス」 <https://www.bbc.com/japanese/52059296>